

群 教 セ	G01 - 03
	平 29.265 集
	国語一中

根拠を明確に示し、自分の考えを 書くことができる生徒の育成

——日常生活に関する資料から情報を選択し

整理する活動を通して——

特別研修員 小山 昌市

I 研究テーマ設定の理由

はばたく群馬の指導プランでは、国語科の課題として「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」が挙げられている。また、そのために伸ばしたい資質・能力として「全体と部分、事実と意見との関係に注意して表現する能力」の育成が求められている。

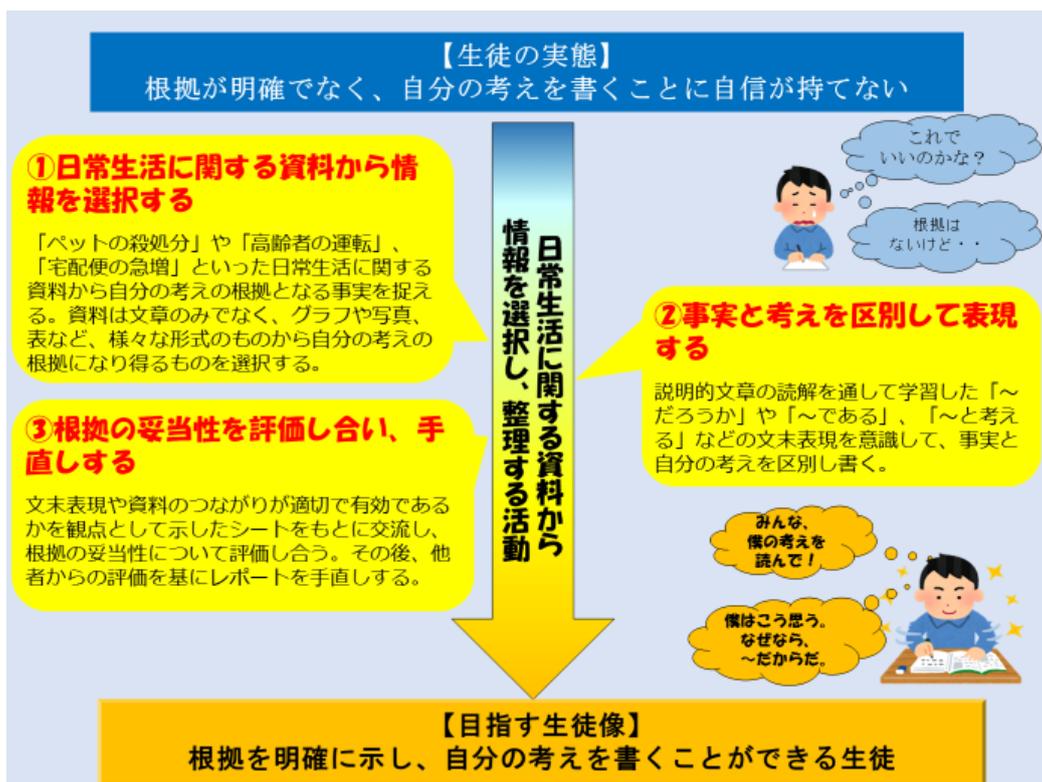
所属校の生徒は、自分の思いだけで文章を書いたり、思い付くままに情報を並べたりするため、自分の考えの根拠に自信が持てなかったり、相手に伝わらなかったりする様子が見られる。これは、特に「書くこと」で伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことを苦手になっているものと考えられる。

そこで、自分の考えや気持ちを支える曖昧な根拠を、より明確に示すことができるようにするために、日常生活に関する資料の中から自分の考えの基となる情報を取捨選択したり、図表との関連を考えたりしながら書く活動を行っていく。また、資料に基づく事実とそこから生じた自分の考えを、文末表現を意識することで明確に区別して書く活動を行っていく。これらは、書くことの言語活動例第1学年 イ「図表などを用いた文章を書くこと」も踏まえた手立てである。

これらの活動を手立てとした実践を行うことで、根拠を明確に示しながら自分の考えを書く力が育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒が根拠を明確に示しながら自分の考えを書くために、以下の手立てを用いた授業改善を行う。

根拠を明確に示し、自分の考えを書くために、日常生活に関する資料から情報を選択し整理する活動

- ①日常生活に関する資料から根拠となる情報を選択する。
- ②根拠に基づく事実と自分の考えを文末表現に注意し、区別して表現する。
- ③互いの考えを交流し、観点を基に根拠の妥当性を評価し合い、手直しをする。

本研究では、①から③の一連の学習活動を「根拠を明確に示し、自分の考えを書くために、日常生活に関する資料から情報を選択し整理する活動」とし、単元に応じて具体化していく。

①では、「ペットの殺処分」「高齢者の交通事故」「宅配便の急増」といった日常生活に関する資料から自分の考えの根拠となる事実を捉える活動を行う。その際、資料は文章のみでなく、グラフや写真、表など、様々な形式のものから自分の考えの根拠になり得るものを選択し、それぞれがどの様に関連しているか考え整理できるようにする。

②では、説明的文章の読解を通して学習した「～だろうか」「～である」「～と考える」などの文末表現を意識しながら、事実と自分の考えを区別して書く活動を行う。問題提起や疑問を書く場合、観察・調査から得られた結果や事実を書く場合、自分の考えや意見を書く場合を意識できるようにする。また、ワークシートの記入欄を、事実を記入する欄とそれに関連する図表を貼り付ける欄、自分の考えや意見を書く欄とに区別し、①で整理した情報の関連を意識できるようにする。

③では、文末表現や資料の関連が適切で有効であるかを観点として示したシートを活用しながら交流し、根拠の妥当性について評価し合う活動を行う。3・4名のグループを編成し、互いの考えを読み合う。その後、他者からの評価を基に自分の記述の仕方を手直しする。

①から③の活動を通して、事実と意見との関係に注意して表現する能力が身に付き、根拠を明確に示しながら自分の考えを書く力が育成できると考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 日常生活に関する資料から情報を選択し整理する活動を通して、根拠を明確にして自分の考えや気持ちを書く力を身に付けることができた。自分の思いだけで文章を書いたり思い付くままに情報を並べたりしていた生徒も、自分がなぜそう思うのか根拠を示しながら記述することができていた。また、文章だけでなく、図表や写真の効果を考えてことで、その根拠がより明確になり、説得力のあるものにする事ができた。
- 根拠となる事実と自分の考えや気持ちを区別して書くことを通して、事実と意見との関係に注意して表現する力を身に付けることにつながった。特に、文末表現に注意することで、自分が今、事実を書いているのか、意見や考えを書いているのかを意識する姿が見られた。自分の意見や考えをより説得力のあるものにするためには、それを支える根拠を明確に示すことが重要だと気づき、日常生活に関する資料の中から、より適切な情報はなく探す姿が見られた。

2 課題

- 様々な形式の資料から根拠となる情報を選択し整理するためには、日常生活に関する資料を精選する必要がある。何もない状態から教師が資料を用意するだけではなく、他教科の授業で用いた資料などを活用していく工夫も必要である。
- 日常生活に関する資料を整理して生じた考えを基に、身の回りの問題に対して疑問点や解決策など、生徒自ら課題を設定し、資料を集めたり考えを見直したりする機会を設け、より自分にとって身近なこととしてレポートを書く必要感を持たせるようにしていくことが必要である。

実践例

1 単元名 「調べたことを報告しよう ―レポートにまとめる―」（第1学年・2学期）

2 本単元について

レポートとは、自分の体験、見聞、研究調査などを特定の個人、仲間などに伝える文章のことである。記録文より目的が明確で、相手意識もより強く働く。調べたことを正確に分かりやすくまとめる力は日常や社会生活においても必要な力である。レポートにはある程度決まった型があり、特に、事実と考察がはっきりと分かれている。本単元ではその型に沿って情報をまとめることで、根拠に基づいた自分の考えを書くことを目標として設定した。

目標	材料を整理し、レポートの形式に沿って自分の考えを書くことができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	・レポートに興味を持ち、身近な話題に関する資料をまとめる際にその形式を生かそうとしている。
	書く能力	・資料の中から、図や表と文章の関連を意識して必要な情報を取捨選択している。 ・事実と自分の意見・感想を書き分けたり、構成を意識したりしながらまとめている。
	言語についての 知識・理解・技能	・文末表現や見出し、数値など、語句・表現に注意して書いている。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・総合的な学習の時間に「地域調べ」をレポート形式にまとめることを知る。 ・レポートの形式を知る。 ・課題の設定の仕方や、調査の方法について知る。
課題 追究	第2時 ～3時	・社会科で学習した「アメリカはなぜ世界の食料庫になれるのか」というテーマをレポートの形式にまとめる。 ・目的に応じて、用いられる図や表の種類が異なることや、その効果を確認する。 ・興味のある日常生活に関する資料から、根拠となる情報を探し、図表と関連付けながら、ワークシートにまとめる。
まとめ	第4時	・グループで、自分が書いたレポートについて発表し合い、図や表と文章の関連や、事実と考察の関連を評価し合う。 ・グループで評価し合ったアドバイスを基に、レポートを手直しする。

3 本時及び具体化した手立てについて

本単元は、全4時間計画であり、本時はその第4時に当たる。本時は、「身の回りの気になる出来事をレポートにまとめよう」という、事実に基づいた自分の考えを書くという課題の解決を図るため、次のように手立てを具体化した。

「身の回りの気になる出来事」について、資料を基に根拠を示しながらレポートを書く学習

①日常生活に関する資料から根拠となる情報を選択する。

・「ペットの殺処分について」「高齢者の交通事故」「宅配便の急増」という話題についての資料を文章、図表、写真に分けて示し、根拠となる事実を図表と関連付けて整理する。

②根拠に基づく事実と自分の考えを文末表現に注意し、区別して表現する。

・レポートの形式に沿ったワークシートを用いる。「課題」「事実 資料から分かったこと」「考察」という項立てを示し、それぞれに合った文末表現で表記する。

③互いの考えを交流し、観点を基に根拠の妥当性を評価し合い、手直しをする。

・「図や表が適切か」「文章が分かりやすいか」「小見出しやタイトルが分かりやすいか」という観点で評価し合う。

4 授業の実際

(1) 前時まで

生徒は、前時までに「なぜアメリカは世界の食料庫になれるのか」という社会科での既習事項を、本時で用いるワークシート（6頁参照）の形式でまとめるという学習活動を行っている。その中で、アメリカの農業に関する事実を、より分かりやすく説明するための図表を地図帳や資料集から選ぶ活動を行った。

また、「ペットの殺処分について」「高齢者の交通事故」「宅配便の急増」という本時で扱う日常生活に関する資料の中から自分がレポートでまとめたものを選び、資料を読むことを行っている。

(2) 導入 本時のめあての把握とモデルの提示【全体】

まず、前時までに作り上げた「なぜアメリカは世界の食料庫になれるのか」についてのレポートを実物投影機で電子黒板に映し、レポートの項立てや図表の効果、事実を書く際の文末表現について確認した。その後、本時でレポートをまとめる際の注意点として、「図や表が適切か」「文章が分かりやすいか」「小見出しやタイトルが分かりやすいか」という観点を示し、事実と考察を述べる際の文末表現の違いや、グラフや表の種類や役割について全体で確認した。

(3) 展開 課題追求 興味を持った話題についてレポートにまとめる【個人】

次に、文章、図表、写真に分けて配布された資料から分かる事実をまとめる活動を行った。その際、二つある見出しのうち、一つはグラフや表を使ってまとめるよう伝えた。また、文章はそのまま抜き出すだけでなく、必要に応じて要約したり、まとめたりするよう伝えた。さらに、マスキングテープを用意し、グラフや写真を仮止めさせておくことで後から動かして手直しができるように配慮した（図1）。事実と図表との関連を意識させるため、「図表を選んだ理由」を記入する欄をワークシート（図2）に設けた。



図1 事実をまとめる活動の様子

<p>小見出し S1: お年寄りの事故を減らすには? S2: 増えていく高齢者ドライバー S3: 高齢者の事故件数の変化</p>	<p>「身の回りの気になる出来事」について、図や表を用いてレポートにまとめよう</p> <p>タイトル お年寄りが起こす「事故」について。</p> <p>1. 議題 お年寄りの運転、について調べたいと思った。</p> <p>2. 調査の方法 新聞の記事を使って調べた。</p> <p>3. 事実 資料から分かったこと</p> <p>見出し「お年寄りの事故を減らす理由」 お年寄りの事故を減らすには、自動運転、自動ブレーキなどの安全技術が実用化されはじめています。また、高齢者の運転手は、全産業の平均年齢よりも高く、勤務の厳しい輸送・運送業界はお年寄りによって支えられている現実があります。</p> <p>見出し「お年寄りの事故件数の変化」 お年寄りの事故件数は、2005年から約10年で2倍以上に増えています。死亡事故数は増えていないが、全体の死亡事故数が減っているため、高齢者の死亡事故が目立っています。</p> <p>図表を選んだ理由 死亡事故件数の変化が分かりやすいから。 高齢者ドライバーの増加と運転手の平均年齢の高齢化が分かるから。 免許を持っている高齢者の人数と死亡事故件数が過去と比べられるから。</p> <p>考察 S1: 認知症の症状が出てきたら、安全装置が付いた車に乗り換える人が増えるといいと考える。 S2: 高齢者ドライバーがタクシーやバスなどの運送業界を支えているので、事故を防ぐために、様々な政策を実行してほしい。 S3: 高齢者は自分で認知症だと気付くことは難しいと思うので、周りの人が気付いてあげられたら、事故は減っていくと思う。</p>	<p>図表を選んだ理由 S1: 死亡事故件数の変化が分かりやすいから。 S2: 高齢者ドライバーの増加と運転手の平均年齢の高齢化が分かるから。 S3: 免許を持っている高齢者の人数と死亡事故件数が過去と比べられるから。</p>
---	--	--

図2 生徒が作成したレポート（高齢者の交通事故について）

(4) まとめ 振り返り 交流と評価【グループ】→【全体】

グループになり、導入で示した観点にしたがって、互いのレポートを評価し合う活動をさせた。その際、同じ資料を選んだ生徒同士が3・4人のグループになって読み合えるように、座席を意図的に配置した。評価し合う際は、5分ずつ時間を設け、観点に沿って評価させた。文章で評価することが苦手な生徒も観点ごとに適切かそうでないか判断できるように、ワークシートに選択式で記入できる欄を設定した(図3)。

レポート評価用紙				
レポート作成者				
評価者	図や表が適切か	文章の分かりやすさ	見出しやタイトル	総合評価・感想
	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)
	文章に書いてあることに合った図表が適切か	適切な所に図表が添えてあるか、文章が読みやすいか	見出しやタイトルが適切か	
	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)
	見出しや小見出しが適切か	自分の考えを分かりやすく表現できているか	興味を引く見出しやタイトルが適切か	総合評価・感想
	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)
	分かりやすい図表が適切か	自分の考えを分かりやすく表現できているか	興味を引く見出しやタイトルが適切か	総合評価・感想
	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)	(A)・(B)・(C)・(D)

図や表が適切か

S1: 選んだ理由が分かりやすい。

S2: 見出しに合った図表を選んでいて分かりやすい。

S3: このグラフより、殺処分についてのグラフの方が分かりやすい。

文章の分かりやすさ

S1: しっかり数値を書いているのが良い。

S2: 図表を使った説明があって良い。

S3: 事実の部分は、事実だと分かる表現にした方が良い。

小見出しやタイトル

S1: 興味を引く見出しで良いと思った。

S2: 事実と合った小見出しになっている。

S3: グラフのタイトルと同じではなく変えた方が良い。

図3 評価用紙の記述と評価の様子

その後、評価用紙に書かれたアドバイスや他の生徒のレポートを参考にして、自分のレポートをより良くするための手直し時間を設けた。

最後に、各資料を選んだ生徒の中から1名ずつを指名し、実物投影機で電子黒板に映し(図4)、資料から分かった事実や図表の意図、考察を発表させた。その他の生徒は、代表の生徒のレポートを参考にしながらさらに自分のレポートを手直ししている姿が見られた。

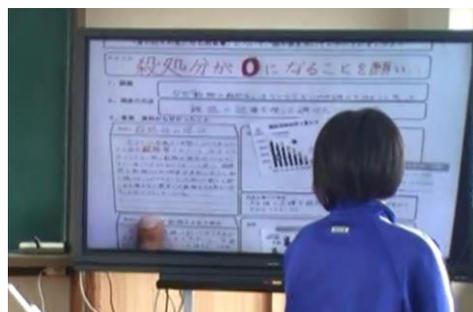


図4 電子黒板で発表している様子

5 考察

前時までを振り返りながら、本時のモデルを示したことで、スムーズに活動に入ることができた。その際、実物投影機を用い実際の作品で確認できたことで、イメージを持ちやすかったものと考えられる。

日常生活に関する資料が文章、図表、写真に分かれて示されたことで、文章と対応する図表や写真はどれなのか考える必要が生じ、根拠となる事実を図表と関連付けて整理する姿が見られた。このことは、小見出しで事実を的確に表現している生徒が多く見られることからもうかがえる。また、レポートの形式に沿ったワークシートを用いたことで、「課題」「事実 資料から分かったこと」「考察」という項立てを意識し、それぞれに合った形で表記することができた。

完成したレポートを互いに評価し合う場面では、同一の資料を基にレポートを書いた生徒同士がグループになるようにした。同じ資料を基にしても取り上げる事実が異なることや、同じ事実からも異なる考えになることに気付くきっかけになった。

一方、評価シートの観点が抽象的な表現であったため、どのようなアドバイスを書いてよいか分からない生徒がいた。具体的な書き方の例や、良い例、改善が必要な例を示し、書きやすくする必要がある。また、身の回りの出来事について生徒の中から疑問や問題意識を生じさせ、レポートを書く必要感を持たせ

ることが重要であると感じた。

6 資料

【ワークシート】

調べたことをまとめよう ―レポートにまとめる―

組 番 名前

「身の回りの気になる出来事」について、図や表を用いてレポートにまとめよう

タイトル

1、課題

2、調査の方法

3、事実 資料からわかったこと

見出し

図表

図表を選んだ理由

見出し

図表

図表を選んだ理由

4、考察